創立者の一人・財政学の権威

田尻稲次郎の業績や素顔に迫る

鹿児島でシンポジウムを開催

鹿児島が生んだ偉人で、財政学の権威として明治から大正にかけて活躍し、また専修大学の創立者の一人である田尻稲次郎（1850～1923）の業績を検証するシンポジウムが12月18日、鹿児島市の鹿児島県歴史資料センター黎明館で行われた。

青木美智男氏（元文学部教授・専修大学史編集主幹）を進行役に、パネリストは永江雅和経済学部教授、徳永和喜氏（黎明館学芸課長）、瀬戸口龍一氏（専修大学大学史資料課）が務め、田尻にさまざまな角度から光を当てた。

▲ 日高義博理事長・学長

シンポジウムに先立ち日高義博理事長・学長があいさつした。

田尻は、薩摩藩士の三男として京都に生まれ、薩摩藩の開成所、慶応義塾、大学南校（東京大学）などを経て米国に留学。エール大学、同大学大学院で経済学を学んだ。

帰国して1880（明治13）年、専修学校（専修大学の前身）を、米国留学時代に知り合った相馬永胤、目賀田種太郎、駒井重格と共に創立。教育者として、また官僚として、日本に初めて財政学を導入し、定着させた。

明治維新を経て、日本が欧米と肩を並べようと近代的な国家づくりを始めた時代。司法の整備とともに重要視されたのが国家財政の確立であった。田尻は日本にフランス財政学を紹介するとともに、大蔵官僚として同じ薩摩藩出身の松方正義を補佐。明治政府の財政、金融制度の確立に尽力した。

教育者としては専修学校のほか東京専門学校（早稲田大学）、東京帝国大学、高等商業学校（一橋大学）など多くの学校の教壇に立ち、のちに大蔵官僚や経済学者として活躍する人材を育成した。

▲ シンポジウムで（左端はあいさつする高山大作黎明館館長）

▲ 企画展に置かれた田尻の胸像

永江教授は「近代国家の財政を安定的なものとした、有能な裏方として名が挙がるひとりが田尻。明治財政史を考えるうえで非常に重要な人物であり、ミスター大蔵省であった。さらに政府財政のチェック機関である会計検査院の基礎づくりをした。会計検査院長としての役割も大きかった」と語った。

瀬戸口氏は「田尻は米国留学中、当時としては珍しく経済学を学んだ。専修学校は経済学を組織したのは専修学校だけだった」と、専修学校で田尻の果たした役割を説明した。

徳永氏は田尻のルーツである薩摩人の気質や薩摩の土壌について解説し、田尻が外国で勉強したいと考えた背景には、島津斉彬（第10代薩摩藩主）ら薩摩人の教育観があったのではないか。薩摩藩は開成所を設置、当時の一流の人材を講師として呼んだ。また語学をとても大事にしている。言葉そのものではなく、語学から文化や生き方を学ぶ姿勢を大切にした。壮大な国家観が田尻に受け継がれている。

『今、大事にすべきものはなにか』を念頭にことに当たった」と語った。

明治の高等教育機関の在り方にも話が及び、「私立学校は国立と違い、学びたいという人間を受け入れ厳しく教育した。人材の養成に、専修学校をはじめとする5大法律学校である専門学校が重要な役目を担った。当時の私立学校の教員の多くは官僚として働き、教員としては無報酬。田尻も例外ではなく日曜日にも教鞭（きょうべん）をとった」（瀬戸口氏）。教育現場から離れなかった田尻の教育者としての姿勢が紹介された。

田尻は質素を旨とし、衣服にかまわず毎日同じものを着た姿から「きたなり」と呼ばれた。田尻の号、北雷（きたなり）の由来となった。そんな田尻が手本としたのが江戸後期に活躍した農村指導者・大原幽学の教えだった（青木氏）――など人間・田尻の隠れた素顔にも迫った。

同館では田尻の生涯をさまざまな角度から紹介する企画展「日本の財政学を築いた薩摩藩士～専修大学創立者・田尻稲次郎の生涯～」（鹿児島県歴史資料センター黎明館・専修大学合同企画展）を昨年11月22日から今年1月9日まで開催。期間中、約2000人が訪れた。

▲ 田尻のご子孫も聴講

◀ 企画展には期間中2000人が訪れた

「国家財政の裏方・ミスター大蔵省」「経済学を体系的に教えた薩摩人」「質素…毎日同じ服の『きたなり』さん」

卒業生やご父母らが鑑賞

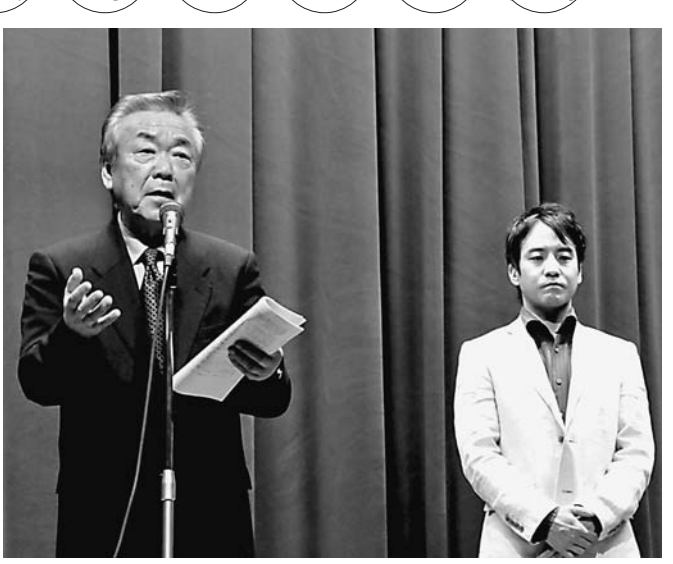
鹿児島、宮崎、水戸、長岡……

専修大学創立130周年記念映画『学校をつくろう』は、2011年2月からの劇場公開後、公共施設やホールでの上映会を実施した。

12月18日に開催された鹿児島市の鹿児島県歴史資料センター黎明館での上映会には、卒業生、ご父母のほか鹿児島県内の高校生ら150人が鑑賞に訪れた（同館では同3日にも上映）。

鹿児島市は創立者の一人、田尻稲次郎ゆかりの地で、当日は同館で企画展を開催中。

▲ にぎわう長岡会場


▲ 鹿児島会場での神山監督（左）と池上リョヲマさん

◀ 水戸会場にも多数の方々が

映画『学校をつくろう』　ホール上映会活発に

▲ 川口会場のポスター

上映前に監督の神山征二郎さん、田尻を演じた池上リョヲマさんが舞台あいさつを行った。池上さんは田尻の留学時代や専修学校創立時のエピソードを語り「周りの目を気にせず、目的を達成するために、懸命に突き進んだ魅力的な人。こんな人物を演じる機会はめったにないと思った」と明かした。

田尻のお孫さんにあたる小出純子さん、奥野英二さん、曾孫にあたる徳田陽子さんらも東京からかけつけ、会場から盛んに拍手を送っていた。映画を鑑賞したあとは企画展の見学や本学教員が講師を務めたシンポジウムも聴講した。

鹿児島市のほか、各地で開催されたホール上映会（全10回）は以下の通り。

▽8月27日・滋賀県彦根市「ひこね市文化プラザ」▽9月3日・滋賀県犬上郡豊郷町「岡村本家　蔵しっく館ホール」▽11月6日・神奈川県海老名市「海老名市文化会館」▽同27日・埼玉県川口市「SKIPシティ映像ホール」▽12月3日・静岡市「グランシップ映像ホール」▽同4日・水戸市「茨城県立県民文化センター」▽同11日・宮崎市「宮日会館宮日ホール」▽同17日・新潟県長岡市「長岡リリックホール」